

【研究主題】

学校、家庭、地域が協働して進める人権教育

～自分の大切さとともに他の人の大切さを認める生徒を育成するための日常の指導～



はじめに

清瀬市立清瀬第三中学校長 梅木 仁

本校は、令和2・3年度東京都教育委員会人権尊重教育推進校として、「学校、家庭、地域が協働して進める人権教育」を研究主題とし研究を進めてまいりました。

研究を進めるに当たっては、人権尊重の理念である「自分の大切さとともに他の人の大切さを認めること」を正しく理解し、「生徒を育成するための日常の指導」を具体的な取組の指針といたしました。

昨年度、今年度とコロナ禍で思うような取組ができないという不便さはありませんでしたが、教師自らの人権意識の向上を図り、多くの方からの御協力をいただきながら、いくつもの人権課題について貴重な学びの場、体験の場を設けることができました。今後もこの学びや体験を生かし、生徒から家庭に、そして地域に「自分の大切さとともに他の人の大切さを認めること」を広めていく所存です。

結びに、研究に御協力をいただきました関係諸機関の皆様、御指導をいただきました講師の皆様から感謝を申し上げます。

清瀬市立清瀬第三中学校

〒204-0002 東京都清瀬市旭が丘1丁目262番

電話 042(493)6313 ファクシミリ 042(495)3943

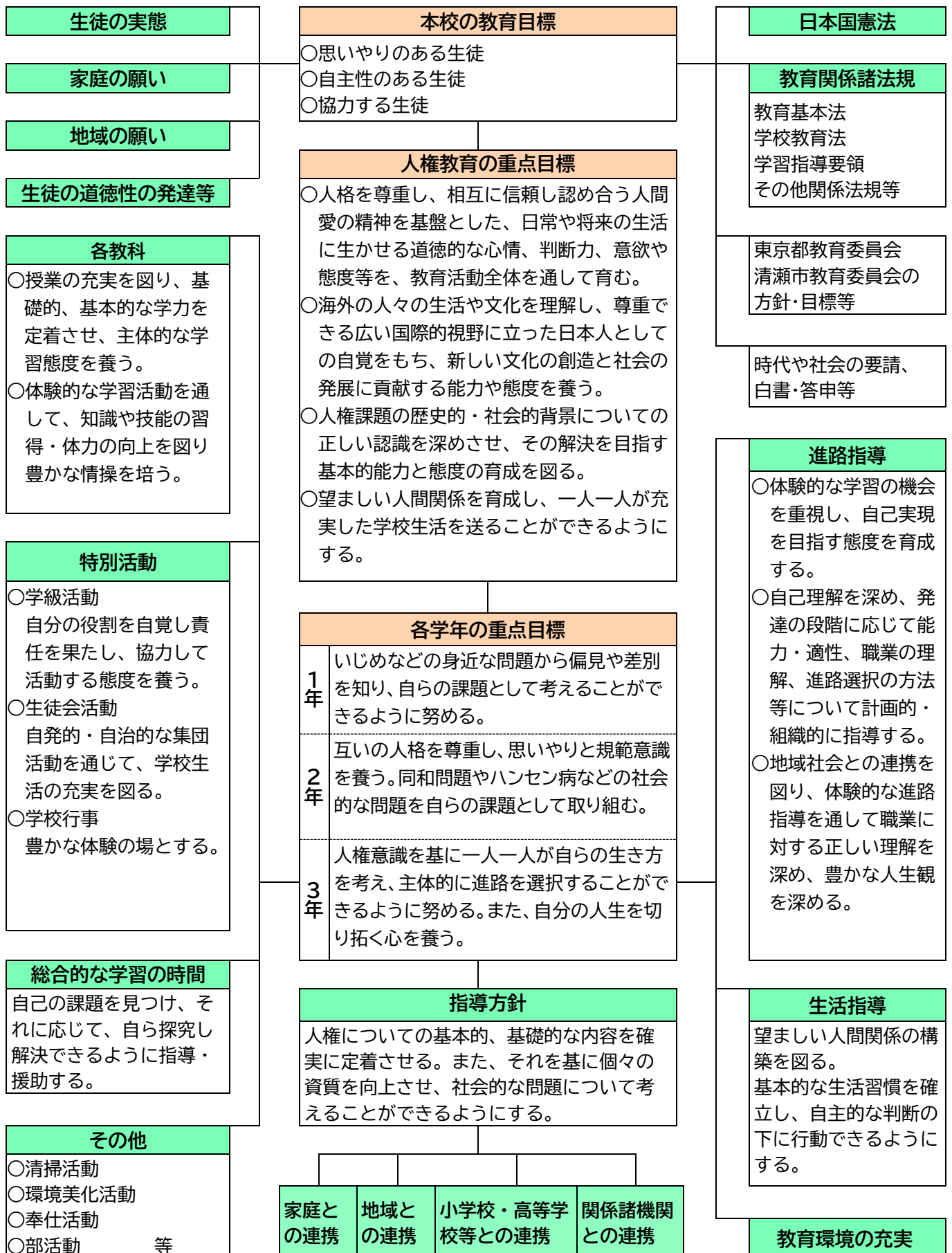
ホームページ <http://www.kiyose.ed.jp/kiyosedaisantyuugakkou/index.html>

メールアドレス kiyo3-jt@kiyose.ed.jp

1 令和3年度 清瀬市立清瀬第三中学校 人権教育全体計画

【研究主題】 学校、家庭、地域が協働して進める人権教育
 ～自分の大切さとともに他の人の大切さを認める生徒を育成するための日常の指導～

個別視点からの取組 普遍的視点からの取組 生徒が主体となる取組 地域と連携した取組



本校の教育目標

- 思いやりのある生徒
- 自主性のある生徒
- 協力する生徒

人権教育の重点目標

- 人格を尊重し、相互に信頼し認め合う人間愛の精神を基盤とした、日常や将来の生活に生かせる道徳的な心情、判断力、意欲や態度等を、教育活動全体を通して育む。
- 海外の人々の生活や文化を理解し、尊重できる広い国際的視野に立った日本人としての自覚をもち、新しい文化の創造と社会の発展に貢献する能力や態度を養う。
- 人権課題の歴史的・社会的背景についての正しい認識を深めさせ、その解決を目指す基本的能力と態度の育成を図る。
- 望ましい人間関係を育成し、一人一人が充実した学校生活を送ることができるようにする。

各学年の重点目標

1年	いじめなどの身近な問題から偏見や差別を知り、自らの課題として考えることができるように努める。
2年	互いの人格を尊重し、思いやりと規範意識を養う。同和問題やハンセン病などの社会的な問題を自らの課題として取り組む。
3年	人権意識を基に一人一人が自らの生き方を考え、主体的に進路を選択することができるように努める。また、自分の人生を切り拓く心を養う。

指導方針

人権についての基本的、基礎的な内容を確実に定着させる。また、それを基に個々の資質を向上させ、社会的な問題について考えることができるようにする。

家庭との連携	地域との連携	小学校・高等学校等との連携	関係諸機関との連携
--------	--------	---------------	-----------

2 人権教育の取組

個別的な視点からの取組〔人権課題へのアプローチ〕

人権課題 「障害者」 【1 学年】

◇人権教育の視点

障害者への理解を深めることを通して、偏見や差別意識を解消するために、障害がある人もない人も思いやりをもって支え合うことができる共生社会を実現しようとする意欲や態度を育てる。

◇活動内容

① 道徳科「あなたには見えていますか」

視覚障害者と点字ブロックに関する資料を通して、生徒たちは社会の在り方について関心を持ち自分自身の問題として捉えることができた。その中で障害のある人に対する偏見や差別に気づき、どのような社会を築いていったらよいかを考え、意見交換を行った。

〈生徒の感想〉

障害のある人は、偏見や差別を感じたり、あるいは無関心から理解してもらえずに生活しづらいと感じたりすることがたくさんあると思います。私たちは障害のある人もない人もお互いに理解し合える社会を築き、障害者の方たちが暮らしやすい優しい世の中を作っていくべきだと思います。

② 講演「ホーキング青山氏」

車いすで活動するお笑い芸人のホーキング青山氏をお招きし、障害のある方との関わり方について御自身の体験を基に講演をしていただいた。障害のある方の心情や具体的な関わり方について考えることで偏見や差別に気づき、障害者理解を主体的に進めていこうとする意欲や態度を育んだ。

〈生徒の感想〉

ホーキング青山さんのお話はとても面白く、車いすで毎日を過ごしていくのはおそらく苦勞もあると思われるのですが、その大変さを感じさせないほどに明るい方でした。

私はホーキング青山さんのお話を聞いて、改めて「人権」とは何かを考えることができました。

お話の中で一緒に鬼ごっこやかくれんぼをした友達が出てきましたが、その友達は「一人一人の人権」を尊重できていたのだと思いました。

私もそういう人間になろうと思います。



人権課題 「同和問題」 【2 学年】

◇人権教育の視点

歴史的背景を正しく理解することを通して、偏見や差別の問題を自らの問題として受け止め、同和問題をはじめ様々な人権課題の解決に取り組もうとする能力や態度を育成する。

◇活動内容

社会科：歴史

「解放令」によって制度上の身分差別はなくなったが、差別の実態や差別意識が残ったことを学習するとともに、現在もお基本的人権を侵害されている人々がいる重大な人権問題の一つとして考察し、人権について考えることができた。

〈生徒の感想〉

同和問題について、改めて考えさせられました。今の世の中にも、このような偏見や差別を受けて、苦しんでいる人々がいることが信じられませんでした。私たちは、このような形の人権問題もなくしていく努力を続けていかなければならないと思いました。



人権課題 「障害者」 【3 学年】

◇人権教育の視点

障害者スポーツについて学び、障害のある人の生活について理解を深めさせることを通して、偏見や差別意識を解消するために、障害がある人も障害がない人も思いやりをもって支え合うことができる社会を実現しようとする意欲や態度を育む。

◇活動内容

総合的な学習の時間

今年度は東京オリンピック・パラリンピックが開催された年であり、障害者スポーツを身近に感じた経験を踏まえて、パラリンピック組織委員会の方に講演をしてもらった。その講演の中で紹介された映像には、選手たちがパラスポーツに懸命に取り組む姿や、その時の思いを語る場面が収録されており、改めてパラアスリートに対する理解を深める機会になった。1 学年の時に、パラリンピックの調べ学習を実施しており、その経験が、講演会を聞く上で、活かしていると感じられた。

〈生徒の感想〉

映像の中で、パラアスリートが全力でプレーをしていました。障害を感じさせない迫力と情熱が伝わってきて感動しました。今回の講演で、自分の中の障害者を特別視する感情が変化し、障害のある・なしにかかわらず、平等に接していこうと思いました。これからの日本や世界の中で差別をなくしていくために必要なのは、私たちの意識と行動なのだと実感しました。

人権課題 「インターネットによる人権侵害」 【全学年】

◇人権教育の視点

情報化の急速な発展による影響と課題に対して主体的に考えることを通して、インターネット上の人権侵害の現状を理解し、自他の人権を尊重する態度を育てる。

◇活動内容

携帯電話会社に協力いただき、「スマホ・ケータイの安全教室」を行った。便利なスマートフォンも使い次第では、様々なトラブルに巻き込まれることを動画や資料を使って説明していただいた。ネットリテラシーを高め、被害者にも加害者にもならないように気を付けて使用していくことの大切さについて、理解を深めることができた。

〈生徒の感想〉

安全教室をふり返って、自分も知らないうちに友達を傷つけてしまっているかもしれないと思うと、とても怖いです。

これからは絶対にそのようなことがないよう、気をつけていきたいと思います。今日のお話を聞いて、たくさん見直さないといけないことがあったので、一つずつ直していきたいと思いました。

人権課題 「子供（いじめ問題）、同和問題、障害者」 【全学年】

◇人権教育の視点

偏見や差別の現状を知り、人権について考えを深めることを通して、互いに認め合い尊重し合いながら共に生きようとする態度を育む。

◇活動内容

3つの人権課題を扱ったDVD「imagination - イマジネーション - 想像してみること」を、タブレット端末を用いて全校生徒一斉に教室で視聴した。

いじめ問題、同和問題、障害者の人権と3つのドラマがあり、視聴後にワークシートに意見や感想を記入した。映像資料等を効果的に使用した授業を通じて、全校生徒が人権課題について考える時間となった。

〈生徒の感想〉

少しでも悩んでいる人の気持ちが分かるように、相手だけに努力させるのではなく、自分たちも努力して、その人たちを助けられるよう行動していきたい。

普遍的な視点からの取組〔授業実践：各教科等の取組〕

教科	学年	単元名	人権教育との関連
国語	1	ブラインドの向こうに見える光	パラリンピック競泳選手だった河合純一選手のノンフィクションを読み、ハンディキャップを多様性と捉える視点を獲得させる。
	2	言葉の力	「言葉は口先だけのものではなく、人間全体を背負うもの」という筆者の考え方について理解を深めた上で自分の考えをもち、これからの「言葉」との向き合い方を見つめていく態度を育てる。
	3	握手	個人の尊厳や平等性を大切にするルロイ修道士の生き様を読むことを通して、人権を尊重する態度を育てる。
社会	1	歴史：世界の古代文明と宗教のおこり	文明がおこり、争いや国家の形成につれ、身分差別や民族対立が始まり、その後の社会にも大きな影響を与えていることについて理解を深める。
	2	歴史：身分社会（江戸時代）	江戸時代には幕藩体制の下で身分が固定され、職業選択が自由にできなかったことや、職業による身分の差、現在の同和問題につながる被差別身分の存在について学び、平等について考えさせる。
	3	歴史：戦時下の日本、戦後の改革 公民：基本的人権の尊重	（歴史）戦時下において戦争遂行のために多くのケースで人権が侵害され、戦後改められた事実に触れ、人権について考えさせる。 （公民）憲法で保障されている基本的人権の具体的な例、憲法発布後の社会の成長に伴って生まれてきた新しい人権について学び、グローバル化に伴う国際社会における人権問題についても知識を深め、人権を尊重する態度を育てる。
数学	1	データの分析と活用	自分と他者との人権擁護を実践するためには、協力的・建設的に問題解決に向けて取り組む態度の育成が求められる。運動会の競技でもある大縄跳びにおいて、どのような並び方で飛ぶのがよいか、データを分析し、事象を論理的に考察させる。
	2	連立方程式(速さの問題)	オリンピック・パラリンピック大会では多種多様な人々が数多くのスポーツで活躍する。その中で車いすのトラック競技者は迫力のあるスピードで競技をする。ある競技者がトラックを何周か走るなかで、出発してからしばらくして、スピードを一度上げて走りきる問題について連立方程式を用いて解く。
	3	多項式(式の計算を利用して、数の性質や図形の性質を説明する)	数の性質や図形の性質が成り立つことを予想し、証明(説明)する活動を通して、論理的に考察する態度を育てる。 ※生徒にどのような性質が成り立つか予想させるところから授業を展開した。生徒に発表させ、出て来た性質をそれぞれ証明し、発表する授業を展開した。生徒はいろいろな(多様な)性質に気付き、予想が論理的に正しいければ、それらがきちんと証明できることに気付くことができた。
理科	1	物質の状態変化	沸騰した水から出てくる気体についてそれぞれの考えを発表しあうことを通して、自らの考えを見直したり、検討したりする態度を身につけ、「情報源から合理的・分析的に思考する技能」を養う。
	2	動物のからだのつくりとはたらき	生活体験を基にした概念だけでなく、実験・観察結果を根拠にして動物のからだのつくりやはたらきを理解し、動物が生き抜くための仕組みであることを深く感じ、自他の生命を尊重しようとする態度を育む。
	3	生命の連続性	生物は多くが有性生殖で殖えていく。人間においても同様で、1つの受精卵から発生する過程を知ることにより生命の尊さに気付き、命がかげがえのないものとする姿勢を醸成する。

音楽	全	合唱コンクール	パート練習という自治的な活動の中で、各個人の能力や性格を配慮し合うことで、思いやりや他者への働き掛けを身に付けさせる。合わせの練習では、指揮者、伴奏者ともコミュニケーションを取りながら、クラス単位でお互いに高め合い、認め合う力を養う。
美術	1	鑑賞	生徒が制作した作品を鑑賞する際に、お互いに作品の内容についてよいところを受容し、認め合うよう指導することで、自他の個性を尊重する人権感覚を養う。
	2	ウッドクラフト（木工芸）	作品のテーマを絞る際に、人の身体や心情を大切に考えて表現内容を決めるよう指導することで、生徒自身の中にある人権意識を育てる。
	3	BOX ART（立体表現）	作品のテーマや材料を考え表現に結びつける活動の中で、見る人の感じ方について想像させる。鑑賞者が気持ちよく作品を味わえるよう発想させることで、他者の感性を尊重する態度を養う。
保健体育	1	バレーボール	技術の優れている生徒、苦手な生徒が一つのチームとして試合をしていく上で、お互いが前向きな気持ちで取り組めるような言葉掛けや技術的なフォローアップを通して人権意識を育てる。
	2	ニュージーランド伝統舞踊「ハカ」	ニュージーランド人の現役ラグビー選手の講師からマオリ族の伝統舞踊「ハカ」を学び、体験・交流することを通して、「ハカ」に込められた思いに触れ、外国人や海外の文化を尊重する態度を育む。
	3	陸上競技（長距離走）	長距離走（12分間走）の授業を通して努力する事の大切さ、苦しいことへ自ら挑戦する気持ちの大切さを学ぶ過程の中で、頑張っている人を応援できる（応援したくなる）感性を磨き、人権意識の向上へ繋げる。
技術	1	材料と加工の技術	材料と加工の技術を用いたものづくりなどの学習を通して、生徒それぞれが抱える問題の解決を工夫して考え、社会からの要求、安全性など多様な見方があることを知ることが出来る。
	2	生物育成の技術	生物の成長などの原理・法則と基礎的な技術の仕組みを学びながら、生活や社会、環境との関わりを踏まえながら人権意識を養う。
	3	情報の技術	情報通信ネットワーク上のルールやマナーの遵守、人権侵害の防止について学び、情報に関する技術を適正に活用する能力と態度を育てる。
外国語	1	Let's Talk 2 体調	相手の体調についてたずねたり、自分の体の不調について説明したりできるようになることで、他者の様子や体調を思いやる姿勢を育み、実際のコミュニケーションの場面で英語を活用する技能を育てる。
	2	Lesson 3 Every Drop Counts	水不足で苦しむ国についての文を読むことで、諸外国の多種多様な状況を理解し、異文化への興味を持たせ、国際的な視野で平等な社会を築いていこうとする心情を育てる。
	3	Lesson 5 I Have a Dream	アメリカにおける公民権運動について学ぶとともに、マーティン・ルーサー・キング Jr のスピーチの一部を読むことを通して、世界の人種差別問題について考えるきっかけを作り、自分の周りにおける偏見や差別にどう向き合うか考えさせる。
特別の教科 道徳	1	決断！骨髄バンク移植第一号 （内容項目D「生命の尊さ」）	悩みながらも自分の骨髄を提供した田中さんの姿から、人が互いに支え合って生きていくことの大切さを理解し、自他の生命を尊重しようとする態度を育てる。
	2	六千人の命のビザ （内容項目C「国際理解、国際貢献」）	第二次世界大戦下のヨーロッパにおけるユダヤ人迫害と、その救済に尽力した杉原千畝の活動を通して、人種・民族による差別の事実を知り、国際的な視野で平等な社会を築いていこうとする心情を育てる。
	3	伝えたいことがある （内容項目C「公正、公平、社会正義」）	偏見や差別を許さない断固とした姿勢でたたかう主人公の姿に共感することで、誰に対しても公正、公平に接し、偏見や差別のない社会の実現に努めようとする態度を育てる。

生徒が主体となる取組〔生徒会を中心とする活動〕

〈1〉あいさつ運動

◇人権教育の視点

コミュニケーションの基本である挨拶を通して、生徒の公共心や社会性を醸成し、自他ともに大切にしようとする態度を育む。

◇活動内容

毎週水曜日の登校時間に、生徒会本部役員の生徒が昇降口で挨拶運動を行う。

〈生徒の感想〉

「おはよう」の挨拶とともに「ハイタッチ」の素振りもして、親近感がわくように工夫している。

挨拶を返してもらえるととても嬉しい。もっともっと誰とでも自然に挨拶が交わせる学校になればいいと思う。



〈2〉夜空に星を輝かせようプロジェクト

◇人権教育の視点

クラスメイトへの感謝のメッセージを掲示する活動を通して、一人一人がかけがえのない存在であることを伝え合い、人権を尊重することの意義や重要性を考える。

◇活動内容

誰かに感謝の言葉を伝えたいとき、夜空の星をイメージした用紙に感謝のメッセージを書き、星空に見立てた模造紙に貼り付けていく。

感謝のメッセージが増えるとともに、夜空の星が輝くようにクラスに思いやりの光が溢れていくことを願い、生徒会が企画した。

〈生徒の感想〉

自分に感謝してくれる人がいて嬉しかった。誰かに何かをしてもらったら感謝を伝えたいと思った。自分一人では大きなことはできないけれど、みんなが少しずつ思いやりの心を持てば、いいクラスになるのだと思った。



〈3〉守ろう!! 三中 SNS ルール!

◇人権教育の視点

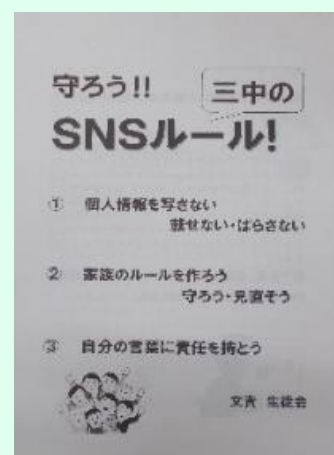
SNS に関するトラブルや問題点を調査し、解決に向けて考え、取り組む活動を通して、課題を見だし、協力的・建設的に合意形成を図る能力を育む。

◇活動内容

SNS に関するトラブルや問題点を調査し、使い方を注意する3つのルールと文面を考え冊子を作成し、全校生徒に配布し共有している。

【3つのルール】

- ①個人情報を写さない・載せない・ばらさない
- ②家族のルールを作ろう・守ろう・見直そう
- ③自分の言葉に責任を持とう



地域と連携した取組

〈1〉「地域清掃」【1学年】

◇人権教育の視点

地域清掃ボランティアの活動を通して、課題を見だし、協力的・建設的に問題解決に取り組む能力を育む。

◇活動内容

毎年行っている地域清掃ボランティアを通して、日頃お世話になっている地域に貢献できること、災害時などには頼られる存在になれることを意識することができた。



〈2〉「認知症サポーター養成講座」【2学年】 人権課題「高齢者」

◇人権教育の視点

高齢者に関わる人権問題の一つ、「認知症」についての現状と課題についての理解を深めることを通して、偏見や差別意識をなくすために自分たちでできることを考え、実践する力を養う。

◇活動内容

動画やスライドを使った講義を通して認知症について学び、ワークシートにまとめや考えを記入した。認知症は誰でもなり得る病気であり、周りの人のサポートによって病気の進行を遅らせることができること、相手の方が安心する接し方等、知識としてだけでなく、実践力を養うことができた。

〈生徒の感想〉

今、私の祖母も認知症なので本当に勉強になった。映像を見て、私も祖母のためにお話したりお散歩したりしたいと思いました。自分の祖母以外にも、道ですれ違った高齢者の方に挨拶したいと思います。

3 二年間の研究の成果と課題

【成果】

〈生徒〉

- 様々な人権侵害があることを学び、人権に対する理解を深め、人権感覚を高めることができた。
- 生徒へのアンケート調査では、「誰かに対立したとき、互いの立場を尊重して解決しようとしている」の項目では、約86パーセントの生徒が肯定的な回答をした。また、「自分の行動で人から喜ばれたことがある」との質問に対し「そう思う」と答えた生徒の増加が顕著であった。

〈家庭や地域への取組〉

- 「周りに困っている人がいたら助けることができる」や「地域活動やボランティア活動に協力し、よりよい社会づくりに参加したい」と考える生徒が増加した。

【課題】

〈生徒〉

- 生徒自身が自分をかけがえのない存在として受け入れる心を育むことができるような指導や生徒の自尊感情の育成につながる指導を意識し継続していく。

〈家庭や地域への取組〉

- 地域の中で協働して、達成感を体験できる教育活動を構成していく。

